

F A O国際食料価格に関する閣僚級会合結果概要について

平成25年10月
農林水産省

10月7日（月）、イタリア・ローマF A O本部において、F A O（国連食糧農業機関）主催の国際食料価格に関する閣僚級会合が開催され、林農林水産大臣が出席。会合の概要は、以下のとおり。

1. 参加国

日本、ブラジル、E U、フランス、タイ等36カ国が発言（うち25が閣僚）。他に102カ国が参加。

2. 概要

- 近年高騰した食料価格が、依然として高位で推移していることを受け、F A O加盟国の閣僚級で食料価格水準と変動への対応策を議論。
- 林農林水産大臣からは、
 - ① 食料安全保障の確保のため、
 - ・世界の各地域における持続可能な農業生産の増大、生産性の向上、多様な農業の共存が不可欠であること、
 - ・生産と消費を効率的に結び、食品ロスを削減するため、バリューチェーンの確立が必要であること、
 - ・責任ある農業投資の促進が重要であること、
 - 等を主張。
 - ② 價格乱高下を防ぐため、A M I S（農業市場情報システム）の実施により、市場の透明性を向上させる必要性を説明。
 - ③ 輸出規制などの措置を控えるべきことを強調。
 - ④ 我が国の農政として「攻めの農林水産業」を紹介。
- 本会合の成果として、食料価格高騰に適切に対応し、世界の食料安全保障を確保するため、国際社会が協調して取り組むことの重要性を確認。